

# クイズに答えて素敵な商品をGET

# 松ぼっくり

**Q** 今年5月に31年続いた「平成」も終わり、新たに元号が「令和」になりました。元号は645年の「大化」から始まりましたが、ちなみに弊社が創業した1717年の元号は「享保」で223番目の元号です。さて、「令和」は何番目の元号でしょうか？

- ① 238番目 ② 248番目 ③ 258番目

**応募方法** 同封のハガキ解答欄に回答をご記入の上、御返信下さい。

皆様のご応募  
お待ちしております

今回の  
商品は  
こちら

⑦ 新訂 先祖の話 3名



⑧ 竹とステンレスで出来たアジアン風鈴 2名



⑨ 線香花火「蓄」 筒井時正玩具花火製造所 5名



**応募期間** 2019年9月30日(月)(消印有効)まで

**当選発表** 賞品の発送をもって当選とさせていただきます。

## 前号 第33号クイズご当選者

### ⑦ 運がよくなる仏教の教え

福岡市博多区 荒木様  
福岡市西区 堀様  
福岡市東区 大西様

### ⑧ スイカ全面プリントゴルフボール

福岡市西区 山崎様  
福岡市中央区 片山様  
宗像市 滝口様

### ⑨ すいかパン

福岡市南区 末川様  
福岡市博多区 川鍋様

## 社員紹介



広島 俊介 (ひろしま・しゅんけい)

生年月日

1998年5月18日

血液型

A型

マイブーム

洗車



今年6月に入社しました広島と申します。趣味は車を扱うことと走ることです。休日はよく、車を扱ったり、走ったりしています。まだ仕事でわからないことがありますが先輩に教えてもらい日々成長していこうと思います。どうぞよろしくお願いいたします。

## 編集後記

夏が近づくと、「今年の松ぼっくりはまだ？楽しみにしています」と何件もお電話をいただき、編集の励みになりました。私は「国松さんなんしよと？」のページを担当させていただきました。お寺のイベントは行くたびに新たな発見があり、面白さを感じています。是非、みなさんも足を運んでみてはいかがでしょうか？ (堺直美)

ご意見・ご感想・質問などどんなことでもお便り下さい。

創業300年 技術の

# 國松石材株式会社

平尾店/福岡市中央区平和3丁目12-27(平尾霊園下)  
TEL 092-401-4194 FAX 092-401-4189

工場/糟屋郡篠栗町大字高田字中坪324-1  
TEL 092-410-1483 FAX 092-410-1987

<http://www.kunimatu.com> 国松石材 検索

## 1 季節の小話

## 2 お墓の相談室「地下式納骨室のお墓について」

## 3 第34回 町名散歩「太宰府」

## 4 お墓参りっていいね！

「お墓参り」の感動的なエピソード  
第9回 ミュージシャン・俳優 星野源さん

## 5 お客様からの声

## 6 お墓のなるほど講座

## 7 國松さん、今なんしよと？

ブログ&Instagram「おまいり福岡」

## 8 クイズに答えて素敵な商品をGET！



## 季節の小話 線香花火

夏の風物詩と言われる線香花火。

その名の由来は江戸時代の書物に花火を香炉に立てて遊んでいる様が描かれています。

それが仏壇の線香に似ていることから「線香花火」の名が付いたと言われています。

火を点けてからしばらくくすぶり、やがて火玉が成長し光の矢束となって放散。

それを幾度か繰り返した後、力弱く垂れ曲がり、ゆっくりと落ちていき淡く儂い夏の宵闇が残る。

戦前の物理学者であり随筆家・俳人でもあった寺田寅彦は短編集「備忘録」で線香花火一本の燃え方を、誕生から終焉までの人生に例えています。

「起承転結があり、詩があり、音楽がある」とも記しています。

線香花火の火玉の移ろいには名前が付いています。蓄→牡丹→松葉→散り菊

その名前からも線香花火の光景が思い浮かぶなんて、なんとも粋だと思いませんか。



# Q&A

## お墓の相談室 疑問・質問コーナー

梅雨も過ぎ、暑い日が続きますが皆さんはいかがお過ごしでしょうか？

今年の梅雨は、福岡では雨が降る予報が出ながらなかなか降らず、降ったと思ったらドカ降りで、対応に困りましたね。

そんな雨の日に皆さんお参りはなかなか行かないと思いますが、私たち石材店の現場は工程をやりくりして毎日をこなしています。

雨水がなかなか引かず、水たまりになることもよくあると思います。

こんな時に気になるのは、地下式納骨室(地下に納骨室があるお墓)の中に水が入っていないか？ということ。

水が流れているかどうかは、お墓と地面の境目を確認すると一目瞭然です。

土が減ってないか？どこかくぼんだ場所がないか？セメント片(モルタル片)が以前より地面より高い所はないか…そのようなお墓は要注意です。ただの雨水と侮ってはいけません。

きちんと水の抜け道と防水の施工をしないとお墓の見栄えが悪くなるばかりか、納骨室に流れ込んだ砂がお骨壺に入ったりして汚くなる原因になります。

ここで少しご紹介を致します。

先ほどお話しした地下式納骨室のお墓をお持ちの方に雨水、砂の流入を防止する方法をお知らせ致します。

それは…

入口改造です。入口が地中にあるお墓に外に繋がるようにお墓の入口にフチ石を作ります。そのご隙間ができないように目地をしっかりと塞いで、最後に入口フチ石を設置したら完了です。

入口改造工事の金額は15万円からとなりますが、効果はてきめん見た目も痒みやすさもぐっと良くなります。写真を載せますのでご覧ください。



工事前



開口箇所



工事中



工事完成



快適な空間ができると、ご先祖様もきっと喜んでくれるのではないのでしょうか？他にもこんなことが気になるという方、どうぞお気軽にご相談ください。

国松さん、今なんしようと？

## ブログ&インスタグラム『おまいり福岡』はじめました！

みなさん、最近のお寺ではどんなことが行われているかご存じですか？

「お寺に行くのはお墓参りの時だけ」(←もちろん素晴らしいです！)、「お寺って入りづらい…」「お寺は近寄りやすい」そんなイメージを変えようと、「お寺に足を運びやすくしたい」という思いを持ったいくつものお寺が、様々なイベントを開催しています！

お寺でコンサートや、素敵なものが集まるお寺マーケット、ヨガや瞑想、お寺を飛び出してカフェで写経、などなど…。「人のため、地域のためのお寺」を現代に合う形を模索しながらチャレンジするお寺が福岡にはたくさんあります。

国松石材では、そんなお寺のイベントをご紹介しますブログ&インスタグラム『おまいり福岡』をはじめました。写真を中心に、どんなお寺のどんなイベントなのかな？ということを知りやすくレポートしています！

実際に行ってみると、温かい木と畳を足で感じ、お香の香りに包まれた美しい本堂の空間にいても身が清められるような気持ちよさがあります。日光浴や森林浴のようにお寺のリラックス効果＝「寺院浴」があるのでは、とあるお寺の方がおっしゃっていました。(納得です！)そんなお寺の空間で写経やヨガを行うととても集中できますし、ピリリとした空気の中で聴くコンサートは音の感じ方が違って聞こえるようでした。

これからたくさんのお寺や神社を訪問して、イベントの様子をお伝えしていきたいと思います。ぜひパソコンやスマートフォン、携帯電話で『おまいり福岡』をチェックしてください！



●ブログ

[http://blog.livedoor.jp/omairi\\_fukuoka/](http://blog.livedoor.jp/omairi_fukuoka/)

おまいり福岡

～福岡のお寺や神社をめぐって体験レポートするブログ～

●Instagram



[https://www.instagram.com/omairi\\_fukuoka](https://www.instagram.com/omairi_fukuoka)



**圓應寺** 中央区大手町の圓應寺では、インド舞踊やダンス、和楽器とお経のコラボなど、華やかな法要がたくさん！



**妙法寺** 中央区唐人町の妙法寺では毎年ホテルのタペコンサートを開催。ホテルも見られる大人気のイベントです。



**円相寺** 東区和白丘の円相寺は「写経体験&ミニ法話」が毎月1回開催。毎日更新される副住職のブログが人気です。



**おてらマーケット**

福岡市や周辺地域で不定期開催される「おてらマーケット」は、とても質の良い素敵な雑貨や美味しいお菓子などが販売されます。(写真は中央区・地行の浄満寺)

## お墓のなるほど講座

今回は日本で見られるお墓の起源をお話ししましたが、今回は日本人のお墓の考え方を民俗学の父と呼ばれる柳田国男先生著『先祖の話』から前後編でご紹介します。



先祖の話  
新訂版 発行所:株式会社石文社

まずは前編、人は亡くなったらどうなるのか?どこへ行くのか?

確かに身近で当たり前のことではありますが、深く考えても答えに辿りつくことが難しいですね。

この本には、人が亡くなったあとの魂は三つの段階をたどる、と次のように書いてあります。

#### ○死霊と荒魂

人が亡くなるとその魂は不安定な「死霊」となって家の付近をさまよう、と信じられています。ときに害を及ぼすこともあるので、荒々しい魂「荒魂」と呼ばれます。

そこで家の人は死霊を大切に鎮める必要があります。仏教の追善供養や神道の鎮魂・慰霊祭がそうです。死霊は大切にお祀りをしてもらうと、その家のわざわいを除き、幸福をもたらしてくれる除災招福の力がある、と信じられています。

#### ○祖霊と和魂

ほとんどの家では、追善供養を仏教式で行います。最初が「四十九日」で次が百日目、あとは一周忌、三回忌、十三回忌というふうな、少しずつ間をあげながら仏壇やお墓で供養します。こうして死霊は年月とともに荒々しさも消え安定し、やがて和やかな魂という意味の「和魂」と呼ばれる家の祖霊となっていきます。祖霊は家族や子孫に繁栄と恩恵をもたらします。

#### ○神霊と氏神

家族の供養を受けて三十年ほどすると、祖霊は血縁の家を離れ、個性をも持たない霊となり、同じ地域の神様の仲間に入るので「神霊」と呼ばれます。これが村の「氏神様」です。鎮守の森(神社)では、村中で氏神様をおまつりします。農業が中心だったころは豊作(五穀豊穰)をもたらす、人々の安全や願いを叶えてくれます。夏の風物詩「盆踊り」はその一環です。

今回は霊魂観についてご紹介しました。

このように魂について考えると、今まで自然にしていた供養はいつの間にかご先祖様から順序良く教わっていたのです。

お墓参りの際に自然と手を合わせることは、どんなに気持ちが良いことでしょうか。

どうぞこれからもお子様、お孫様にもお参りのすばらしさを伝えて下さい。

### 第34回 町名散歩

だ ざ い ふ  
太宰府

今回の町名散歩は、4月1日に発表された新年号「令和」の発祥である太宰府に行ってきました。

そもそも「令和」の由来は何だったのでしょうか?

由来は、大伴旅人邸で開かれた「梅花の宴」その宴の序文、

「初春の<sup>れい</sup>令<sup>げつ</sup>月にして <sup>きよ</sup>氣<sup>よ</sup>淑く風 <sup>やわ</sup>和<sup>らぎ</sup>、  
<sup>きょうぜん</sup>梅は鏡<sup>こ</sup>前の粉<sup>ひら</sup>を<sup>はいご</sup>披<sup>こう</sup>き <sup>かぶら</sup>蘭は珮<sup>ごう</sup>後の香<sup>かぶら</sup>を<sup>かぶら</sup>薫す」

この一節が新年号「令和」として採用されました。

太宰府市にある坂本八幡宮は大伴旅人邸の所在地であった説が浮上し、今では観光客や参拝者が殺到しているそうです。お参りの記念に御朱印を押していただけるというのも人気のようです。行った際には是非うかがってみてください。周辺には駐車場も多数完備されておりましたので、遠方から車で行かれる方も安心です。

またこの坂本地区は、謡曲や歌舞伎、人形浄瑠璃で知られる<sup>かるかやでんせつ</sup>荻萱伝説ゆかりの地でもあり、周辺には5つの歌碑が建っており、それぞれの想いのこもった歌が刻まれていました。

ご興味のある方は、歌を読み解きながら散策するとより楽しめるかと思います。



坂本八幡宮(正面入り口)



坂本八幡宮入口の歌碑

太宰府

「お墓参り」の感動的なエピソード

第9回 ミュージシャン・俳優 星野 源さん

お墓参りっていいね!

# 「墓参り」

星野 源 著「蘇える変態」(マガジンハウス)より

(上略)

星野源名義のセカンドアルバムの制作に着手し、一カ月間寝ても覚めても「ものづくり地獄」の真ただ中でほぼノイローゼ状態というせいもあるが、ああ……！ 食器洗ってたら割れちまった。もう嫌だ。こんな時はどうしよう。どうすればいいんだ。

そうだ、墓参りに行こう。

そんなわけで埼玉は大宮にある墓地に来ました。ここは母の母が眠る公園墓地。公園墓地というのは、特定の宗派や購入資格などの縛りがなくとも入れる場合がほとんどで、たとえば浄土宗の墓の横にキリスト教の十字架が彫ってある墓石があったりする。音楽でいうと「NOW」(懐かしい……) 的な企画ものCDや、海外ミュージシャンも出演する音楽フェスみたいなものがある。国や思想の垣根がないというだけで不思議なお得感を感じる。そんな意味でも自由で開放的な気分すら感じられるのが公園墓地なわけです。

天気もよくて清々しい空気だし、草木や花も整備が行き届いていて綺麗だ。入り口にある藤の花もしっかり咲いていて門を通る時に歓迎されているような気持ちになる。吉原にあるソープの入り口を開けたら男性店員数名が廊下の両脇にずらっとひざまずき「いらっしゃいませ」と言われて感動した時と似た気持ち良さだ。

墓掃除のための雑巾、水おけと柄杓。そして花束を抱えて墓石の前に立つ。挨拶をすませ、墓を磨き水をかけ、花を生け線香をあげ、母の母に手を合わせて祈る。

お祖母ちゃん、いつもありがとうございます。なんとなくこの世には神様はいない感じがしますが、霊と妖怪はいると思っています。なぜかいつも誰かに見守られている気配がするからです。最近曲ができなくて深夜の山手通りをゾンビの真似して奇声を発しながら歩いたりしていますが、一応健康で元気です。これからもよろしくお願いします。

祈り終わって目を開けると、雲間から太陽が照りだした。ずいぶんドラマチックだ。なんだかとてもいい気分になった。

次の墓地に移動する。今度は父の父母が眠る寺である。その場所は昔沼地で、家を建てるのが禁止されていた区域らしく、建物もあまりなく田んぼやあぜ道ばかりで、同じ大宮であることは変わらないのにものすごく田舎の風情がする。人もほとんどいない。

今度はお寺さんなので、小さくこぢんまりとしているが、巖かでディープな感覚を味わえるのが特徴だ。ライブハウスに喩えたら高円寺ペンギンハウスかJIROKICHIみたいな感じだ。芝居小屋なら高円寺明石スタジオだろう。ステージとの距離が近くて密度も濃く熱い。そして墓地に着くとなぜか急に雨雲が空を覆い、薄暗くなると同時に非常に神聖な気持ちにもなった。

昔サケロックの曲として書いた「七七日」という曲のタイトルを思いついたのもこのお寺だ。それまで四十九日というのは「四十九日」と書くと思っていたが、ここでは「七七日」と記してあって、それが「七×七=四十九」だと気付いた時には、なんて面白いネーミングなんだと感動したものだ。

墓石を磨き水をかけ、線香をあげ、花を生けて祈る。

お祖父ちゃんお祖母ちゃん、いつもありがとうございます。俺はお祖父ちゃんからいろいろなものを隔世遺伝で受け継いでいると思います。だからきっと数十年後には思い切りハゲてしまうと思いますが、お祖父ちゃんは額の方から後頭部にかけてハゲるタイプだったので、そうなるんだったら全然いいです。頭頂部から輪が広がるようにハゲるのだけはなんとか阻止したいです。ハゲたらどうしたらいいですか。お祖父ちゃんはハゲはじめた時どういう風に自分のメンタルを保ちましたか。そしてお祖母ちゃんはどんな気持ちでその過程を見つめましたか。俺の将来の嫁さんはハゲを肯定してくれる人でしょうか。不安です。これからもよろしくお願いします。

ハゲの恐怖に泣きながら墓地を後にして家まで帰った。途中腹が減ったので、鰻屋に寄った。大盛りをガツガツ食べていたら、なんだか元気になってきた。

昔から、葬式や墓参りの後にはなぜか元気が出る。死に直面した後は、気持ちが「生きねば」と自然にポジティブになる。その仕組みはいまだによくわかっていないけど、それが長く生きるためのヒントなんじゃないかとも思っている。

アルバムの曲づくりの締め切りは刻々と近づいてきている。何処かに逃亡したいが仕方ない。とりあえず、次のアルバムには墓参りの曲が入ることになるだろう。安直だが、それもいいのだ。ものづくり地獄にはまりながら、今日も一日頑張ろう。

## 蘇える変態



## 完全復活。

「ものづくり地獄」の音楽制作、俳優業の舞台裏から、エロ妄想で乗り越えた闘病生活まで。突然の病に倒れ、死の淵から復活した著者の怒涛の3年間。  
星野源 [GINZA]の経験エッセイが、ついに書籍化。マガジンハウス 定価(税別)1500円

(株式会社マガジンハウス) 発行日 2014年5月9日

## お客様の声

國松石材とご縁をいただいたお客様の温かいメッセージをご紹介します

# 『お陰様で家族の思い通りの立派なお墓が完成しました』

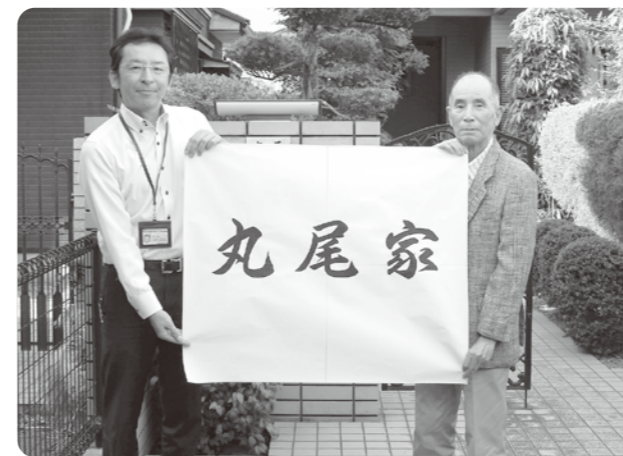
福岡市が募集していた三日月山霊園に申し込んだところ当選し墓石建立に向け色々と考えていました。そのころ息子の嫁のお母さんから、お墓を建てるなら伝統ある国松石材さんが良いですよと、松ぼっくり32号を持参され勧められました。それではと電話をすると、お客様係の有吉さんが出られいくつか話をしました。その後、自宅ですく打合せをする事となりました。訪問時にはお墓に関する説明をして頂き、また当方の希望も伝える中、気持ちよく相談に乗って頂いたので、有吉さんにお任せする事にしました。



東区にお住いの丸尾様

打合せ当初からお墓については、和型よりも洋型のデザインに特化した、個性的なお墓を建てたいと望んでおり、有吉さんと試行錯誤を重ねました。結果、シンプルでありながら石種をインド産にこだわり、色調豊かなモダンなお墓に仕上がったと思っています。

お陰様で家族の思い通りの立派なお墓が完成し有吉さんには深く感謝しております。本当に有難うございました。



お墓の文字打ち合わせにて

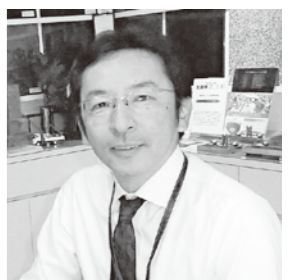


完成イメージ図

## 担当者から一言

丸尾様とは最初の出会いは、一本の問い合わせの電話からでした。打合せのお願いをすると快く受けて下さり、早速ご自宅を訪問させて頂きました。元々は熊本の八代にお墓があり、今回当選されたのでお墓を福岡に建てられるとの事。熊本の話やお孫さんやお嬢さんの話をするなか、盛り上がり建立に携わせて頂けるようになりました。いつも打合せの時は楽しくて、くつろいでしまい毎回おいしいコーヒーと、お茶菓子を頂き、長居してすみませんでした。

今回、私も自慢のお墓が完成して、心おどっております。丸尾様とは良いご縁を結んで頂いたと感謝しております。有難うございました。



ありよし せつお  
お客様係 有吉 攝生